

26年3月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 2月20日～ 26年3月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		26/3月	4月	5月
伐採動向	スギ	△ 20.0	△ 10.0	10.0
	ヒノキ	△ 33.3	△ 50.0	16.7
	カラマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
出荷・販売動向	スギ	△ 30.0	0.0	10.0
	ヒノキ	△ 33.3	△ 33.3	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	50.0	0.0	0.0
手持立木 在庫動向	スギ	12.5	△ 12.5	△ 25.0
	ヒノキ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	△ 50.0	△ 50.0	0.0

スギ及びヒノキの伐採は、3,4月の減少が5月には増加に、カラマツは減少傾向で推移、エゾ・トドは横ばいで推移。
スギ素材の出荷は3月の減少が4月の横ばいを経て5月には増加に、ヒノキは3,4月の減少が5月には横ばいに、カラマツは横ばいで推移、エゾ・トドは3月の増加が4,5月には横ばいに。
スギ手持ち在庫は3月の増加が4,5月は減少に、ヒノキは減少傾向で推移、カラマツは横ばいで推移、エゾ・トドは3,4月の減少が5月には横ばいに。

モニターからのコメント

(伐採動向) ・スギ・カラマツは前月と同じく、原木不足と作業員の不足が続く。

- ・間伐、3月中に一年間の仕事を確保する予定。
- ・カラマツなし。
- ・間伐中心(委託生産)

(出材・販売動向) ・スギ・カラマツは並材が不足、カラマツは高値維持。

- ・カラマツ手持ち立木減少→無。
- ・ヒノキ材の大幅な値下がり、間伐委託生産のみで手持ち山は伐採しない。

(手持ち立木在庫)

- ・スギ及びヒノキ立木在庫はゼロ。
- ・スギ・ヒノキは手持ち不足気味(特にカラマツ立木)。
- ・トドマツ入荷少な目、カラマツ減少気味。